

# 「核兵器廃絶に向け歴史的な意義を持つ」 木浦市長もオバマ米大統領のプラハ演説を評価

6月11日、一般質問を行いました。市議会に出て、これで連続18回目となります。今回はオバマ米大統領のプラハ演説の評価と市の平和施策の充実、自治基本条例制定後の取り組みと課題の整理、そして新たな過疎法制定めざす取り組みについてとり上げました。以下はその大要です。

【橋爪】4月5日、アメリカのオバマ大統領がチエコのプラハで歴史的な演説を行った。この演説の中でオバマ大統領は、「米国は核兵器のない、平和で安全な世界を追求していくことを明確に宣言する」とのべ、「核兵器のない世界——核兵器廃絶を国家目標とすることを初めて明らかにした。しかも単なる宣言ではなく、新しい戦略核兵器削減条約の交渉開始や包括的核実験禁止条約の批准など「核兵器のない世界に向けた具体的な措置」に踏み込んでいく。どう評価しているか。

【木浦市長】この演説は、国際社会に向けて核兵器の廃絶を強く呼び掛けたものだ。当市では、戦後50年の節目に当たる平成7年に、「非核平和友好都市」を宣言しているが、最大の核保有国の指導者によるこの度の演説については、原爆を投下した世界唯一の国である米国の道義的責任に言及するとともに、核兵器の廃絶に向けた提案が極めて具体的に示されたという点で、歴史的な意義を持つものとして、私も大



いに評価できるものと考えている。

【橋爪】上越市はこれまで、広島市の平和祈念式典への中学生の派遣、戦争体験談集の発行など、非核平和を求めるさまざまな取り組みを展開してきたが、これまでの成果と今後の課題についてどう考えているか、明らかにしていきたい。

【木浦市長】広島平和記念式典に参加した生徒からは「非常に貴重な体験となり、改めて平和について考える良い機会となった」との感想が寄せられるなど、それぞれの取り組みについて一定の成果があがっているものと考えている。今後は、こうした取組みを通じて実感された平和の尊さに関する貴重な思いが、世代を超えて広く市民の皆さんから共有されることが最も大切だ。

## 戦争体験談集の継続的取組み約束

【橋爪】核は抑止力になるという誤った見解があるなかで広島市の平和祈念式典への中学生の派遣の取組みは重要だ。広島へ行ってきた中学生の感想文集はすばらしい。昨年度のものだけでなく以前のものにも心を打つものがいくつもあるはずだ。単行本化できないか。また、戦争体験談集にもすぐれた作品がいくつもあつた。この取り組みを一回きりにしないで継続してほしい。広く読んでいただくとともに第2集、3集と出せないか。

【市村総務部長】広島へ行った中学生は平和の尊さを知り、感動をもって帰ってきている。感

想文集はできるだけ広く、世代を越えて見ていただけるように活用していきたい。また、戦争体験談集は、増刷を考えているが、いろんなお声がある。遺族会からもご協力をいただけると聞いている。点ほどたまった段階で次を出していきたい。

## 自治基本条例施行後一年の総括

【橋爪】上越市の自治基本条例は昨年3月に制定され、4月から施行された。合併協議に参加した者としてはようやくひとつの区切りがついたという思いがする。市長も、市の最高規範であるこの条例を意識して、この1年数か月を歩んでこられたのではないか。どう総括されているか。

【木浦市長】昨年4月の自治基本条例の施行以来、私は市政運営のあらゆる場面で、本条例を基本とした取組みを進めていくとともに、市民の皆さんによる自治・まちづくりの活動の中で、より多くの皆さんから本条例が活用されるよう普及啓発に努めてきた。

改めて制定から1年を振り返ってみると、市民、市議会、市長等の権利・権限や責務とともに市政運営のルールが条例という形で明確に定められたことの意義は大きい。このことに基づいて、情報共有や市民参画の視点など本条例における基本的な理念や原則の重要性について、行政だけではなく、市民の皆さんにも“気付き”を生み出す機会となったものと考えている。

一方、本条例に対する意識を行政内部にしっかりと浸透させるとともに、市民の皆さんの自治・まちづくりの活動にいかしていただくためには、更なる努力が必要だ。（裏面につづく）



【コシジシモツケソウ】ピンクの花を付けます。大賀にて13日撮影。

